

医療情報部

1 構 成 員

	平成19年3月31日現在
教授	1人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	3人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	0人
その他（技術補佐員等）	1人
合 計	6人

2 教員の異動状況

木村 通男（教授）（平成8. 10. 1. ～現職）

谷 重喜（助教授）（平成9. 6. 1. ～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成18年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	2編（2編）
そのインパクトファクターの合計	0
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	6編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	3編（3編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	2編（2編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 木村通男：静岡県版電子カルテ（厚生労働省電子的診療情報交換推進事業 SS-MIX）が医療にもたらす可能性 1.いま，電子カルテをめぐって考えておくべきこと，看護管理 17(2)，160-164，2007.

2. 木村通男：静岡県版電子カルテ（厚生労働省電子的診療情報交換推進事業 SS-MIX）が医療にもたらす可能性 2.静岡県版電子カルテ運用の実際，看護管理，17(3)，260-267，2007.
インパクトファクターの小計 [0.00]

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 木村通男：SS-MIX厚生労働省電子的診療情報交換推進事業，医療情報学，第26回医療情報学連合大会論文集 26-Suppl:135-137，2006.
2. 谷重喜，木村通男，作佐部太也：病院情報システムの保護と堅牢化に関する研究，医療情報学，第26療情報学連合大会論文集 26-Suppl:567-568，2006.
3. 木村通男：医療情報システムの光と影，第66回日本医学放射線学会学術集会論文集，S382，2006.
4. 木村通男：電子診療データCD発行について，第66回日本医学放射線学会学術集会論文集，S382，2006.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 中安一幸，木村通男：医療のIT化～年表に見る省庁間連携～，第26回医療情報学連合大会，医療情報学，第26回医療情報学連合大会論文集 26Suppl:196-197，2006.
2. 八幡勝也，中川俊男，上村恭一，大橋克洋，木村通男，上野智明：ORCAの現状とこれから，医療情報学，第26回医療情報学連合大会論文集 26-Suppl: 132-133，2006.

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 木村通男：全国へ広がる「静岡県版電子カルテ」医療の透明性向上と標準化基盤の整備，月刊新医療 7:33 (7)，68-73，2006.
2. 木村通男：医療情報の標準化についてのFAQ，月刊新医療 8:33 (8)，158-162，2006.
3. 木村通男：電子カルテは勤務医の味方か？，日医ニュース，第1081号(8)，2006.

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 木村通男（編集）：電子カルテ・医療情報システム部品集200，インナービジョン，2006.
2. 木村通男：電子カルテ06年の現状 その有用性と今後の課題，医療機器システム白書2006-2007，月刊新医療，株式会社エム・イー振興協会，172-176，2006.

4 特許等の出願状況

	平成18年度
特許取得数（出願中含む）	0件

5 医学研究費取得状況

	平成18年度
(1) 文部科学省科学研究費	1件 (160万円)
(2) 厚生科学研究費	2件 (1,100万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	1件 (240万円)

(1) 文部科学省科学研究費

谷重喜(代表者) 萌芽研究「光学的CTスキャン顕微鏡による三次元病理組織細胞観察システムの開発」 160万円(継続)

(2) 厚生科学研究費

木村通男(代表者) 医療安全・医療技術評価研究事業「標準的電子カルテ基盤上での医療安全の実現と評価に関する研究」650万円(新規)

木村通男(代表者) 政策科学総合研究事業(統計情報総合研究事業)「医療分野IT化に対応した統計調査の在り方に関する研究」450万円(新規)

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	4件	2件
(2) シンポジウム発表数	1件	3件
(3) 学会座長回数	1件	2件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	2件	5件
(6) 一般演題発表数	0件	

(1) 国際学会等開催・参加

2) 国際学会・会議等における基調講演・招待講演

Kimura M., IHE in Japan, 1st China Symposium of PACS-RIS, Beijing, China, April 16, 2006.

Kimura M., EHR in Japan Related Government Activities, Seoul EHR Forum, Proceedings 97-115, Seoul Korea, June 19, 2006.

Kimura M., Hirai M.:HL7 Japan CDA Referral Document Deploys Nationwide, M2 Keynote, International HL7 Interoperability Conference IHIC 2006, Cologne, Germany, August 25, 2006.

Kimura M.: EHR in Japan, -Recent Government Activities, Asia-Pacific Region Reports (I), APAMI2006, Taipei, Taiwan, October 28, 2006.

3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

Kimura M.: Miyamoto M., Akiyama M., Toyoda K.:What We Obtained and What Were the Real Barriers of CPOE and EHR -Lessons Learned From CPOE and RHIO in Japan, Workshop 09, AMIA2006: 32, Washington DC, USA, November 11,2006.

4) 国際学会・会議等での座長

Kimura M.: Information Technology in Healthcare, WC 2006 SEOUL, Seoul , Korea, August 28, 2006.

(2) 国内学会の開催・参加

2) 学会における特別講演・招待講演

木村通男：内外のEHR プロジェクト状況—事例紹介：静岡県版電子カルテ，第232回医療とニューメディアを考える会，6月27日，2006.

木村通男：電子カルテ2008年問題とは，第4回標準化推進協議会シンポジウム，10月31日，2006.

3) シンポジウム発表

木村通男：日本のEHR－対象データの範囲と費用負担－，日本医療情報学会特別シンポジウム，4月28日 2006.

木村通男：電子カルテ2008年問題とは，第4回標準推進シンポジウム，10月31日，2006.

木村通男：SS-MIX: 厚生労働省電子的診療情報交換推進事業，第26回医療情報学連合大会，シンポジウム14，ORCAの現状とこれから，11月3日，2006.

4) 座長をした学会名

木村通男：第3回医療情報標準化推進協議会シンポジウム

木村通男：第26回医療情報学連合大会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

Kimura M.：Vice President Board Member , Asia Pacific Association of Medical Informatics

Kimura M.：Chairman, International Medical Informatics Association (IMIA) Working Group 16 (Standardization)

木村通男 日本医療情報学会 副会長, 標準化委員長

木村通男 日本医療情報学会中部支部会 世話人

木村通男 日本医学放射線学会 電子情報委員会委員

木村通男 日本医学放射線学会中部地方会 世話人

谷 重喜 日本医療情報学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	1件	4件

(1) 国内の英文雑誌の編集

木村通男 JAMIT（日本医用画像工学会誌）編集委員

(2) 外国の学術雑誌の編集

木村通男 Informatics in Healthcare Australia（オーストラリア医療情報学会誌）Editorial Board.

木村通男 International Journal of Medical Informatics（Elsevier Publishing）Editorial Board.
インパクトファクター 1.0

木村通男 Methods of Information in Medicine（Schattaur Publishing）Editorial Board,
インパクトファクター 11

木村通男 Journal of Korean Society of Medical Informatics, International Editorial Board

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

2回 International Journal of Medical Informatics（アメリカ合衆国）

2回 Methods of Information in Medicine（ドイツ）

4回 Journal of Korean Society of Medical Informatics（韓国）

1回 日本医用画像工学会雑誌（日本）

1回 計測自動制御学会（日本）

9 共同研究の実施状況

	平成17年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成17年度
産学共同研究	0件

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 静岡県版電子カルテ開発支援

静岡県からの要請により静岡県版電子カルテ開発事業に技術検討委員長として参画している。

(<http://www.mi.hama-med.ac.jp/emr/>) これは、静岡県の病院において、病診、病病連携を進め、患者の希望によりデータを提供し、臨床情報についての柔軟な検索を後述のオブジェクト指向データベース（本講座で開発）を可能とし、一部の情報種ではペーパーレス電子カルテを実現

するものである。昨年度で機能要件書が定まり、受注業者が決まり、実際の開発に入った。平成19年には県内5箇所導入された。

(木村通男, 谷 重喜)

2. 最速なレスポンスの病院情報システム開発

オーダーエントリーシステム（処方、検査依頼など）については、日本は世界一の普及率を誇り、その扱うデータ種類、量も世界最大である。そのためシステムレスポンスが遅くなるのが散見されるが、大型計算機のパラレルアーキテクチャの採用、中間サーバによる負荷分散などを通じて、最速のレスポンスを全処方内容、全検査結果、全画像の永久保存を保証しつつ達成する。平成19年4月には、新しいシステムへの更新を予定しているが、平成19年3月現在、NEC社製の中では日本有数のレスポンスを示すことを確認しつづけている。

(木村通男)

3. 診療情報のオブジェクトデータベース化

診療情報の蓄積は、単に保存するだけではそこから有意義なデータは取り出せない。これをいろいろな角度で分析することが、データマイニング技術であるが、これの基礎となる情報を構造を持ってオブジェクトデータベース化して極めて柔軟な検索を可能とし、3年前にサービスを開始し、これを本格運用している。なお、このデータベースは、1. の静岡県版電子カルテの開発の雛形として採用され、すでに県内4箇所、県外2箇所の病院で利用されている。

(木村通男)

4. DICOM規格「予約情報」「検査実施情報」の日本での利用指針（「JJ1017指針」）作り

DICOM規格の非画像情報である上記2つは、HIS大国の日本でこそ、その有用性が高い。ただ、法令や運用で求められる情報が、諸外国とは異なり国内での取り決めが必要である。これについて、担当2工業会（日本画像医療システム工業会、保健福祉医療システム工業会）からの要請で木村が、委員長となり、その指針作りをおこなった。これにより、経済産業省医療情報相互接続性実証事業として、この指針に基づいた異メーカー間の情報伝送が、埼玉医大病院、岡崎市民病院で実装された。この2施設には、IHE-Jとして内外から多数の見学者が引き続いている。同指針は、厚生労働省の標準化委員会に提出されている。

本院において、平成19年4月のシステム更新により、これらの実装を行う予定である。

(木村通男)

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

1. 静岡県版電子カルテの実装、国事業への展開

ついに静岡県版電子カルテが2施設で実装された。この事業は徹底した標準化が意識されており、国が平成16年にまとめた標準的電子カルテ推進委員会（木村が委員）の最終報告書で推奨されている規格そのものであり、平成18年度の厚生労働省標準的電子カルテ情報交換システム事業として、全国で利用されることとなった。ここで採用した項目記述スタンプ機能は、今後大規模

臨床スタディや治験などでの利用が検討されている。

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

1. DICOMへのURLスキーマの提案，HL7，DICOMでの多バイト文字の利用など医療情報標準化関係の仕事は，木村が，DICOM委員会顧問，HL7日本代表，ISO TC215《医療情報》WG2の日本代表であり，またこういった会議に頻繁に出張して参加していることから常に要望を受ける立場にあり，当方の意見も重視される環境にある。JJ1017指針は，DICOM委員会から早急な英文化を求められそれを工業会の助力もあり実現し，すでに2施設で実装された。静岡県版電子カルテで策定，採用した患者データ規格は，画像を超えた媒体情報提供が世界初であることもあり，要請により英文で規格書を準備している。

15 新聞，雑誌等による報道

1. 木村通男；全国への普及目指す静岡県版電子カルテ，週刊東洋経済 10/28 特大号, pp96, 2006.